

## (音楽)

### ・まちかどコンサート in 地域連携交流施設 (地域連携交流施設)

播磨町の地域連携交流施設において、まちかどコンサート in 地域連携交流施設を開催しました。演奏と併せて来場者に茶菓を提供したりするなど、楽しんでいただけるようなステージを目指しました。



### ・まちかどコンサート in 図書館

播磨町立図書館1階児童書コーナーにおいて、まちかどコンサート in 図書館を開催しました。未就学児から高齢の方まで、幅広い年齢層の方に演奏を楽しんでいただきました。



### ・ウィンターコンサート

兵庫県立考古博物館にてウィンターコンサートを開催しました。このコンサートは多数のご来場を賜り、演奏自体もご好評をいただきました。



## (美術)

### 「コラボアート」

場所：はりまデザインラボ

対象：芸術保育類型美術系列1年 13名

東播磨特別支援の美術部員と共同で作品作りを毎年夏休みに行っています。平成29年度は、モザイクアートを行いました。お互いに意見を出しながら作品が仕上がっていきました。



### 「大学見学」

毎年、夏休みの芸術基礎の時間に1年生は神戸芸術工科大学、2年生は県外の芸術大学に見学に行っています。2学年の大学見学の様子を紹介します。

場所：嵯峨美術大学

対象：芸術保育類型美術系列2年 17名

大学の授業や設備の説明を受けました。体験授業は、パソコンでPhotoshopというソフトを使ってオリジナルの名刺を作成しました。最後には名刺交換をしました。



### 「外部講師による授業」

神戸芸術工科大学の先生に来校していただき、授業を受けました。今年度は3回来ていただくことができました。

写真は、〈映画入門〉の授業をしていただいた様子です。ストーリーの組み立てや、アプリの紹介など、短い時間でしたが充実した時間となりました。



## (保育)

### 「ペープサート」

場所：本校 被服教室

対象：3年「子ども文化」選択者12名

ハーベスト医療福祉専門学校リトミック保育学科 森口雅子氏を講師にお招きしました。1回目はペープサートとはどんなものか、どう作るのかなど、基礎を学んだ後、それを踏まえて、2回目は、ペープサートをどのように使って、表現していけばよいか等、実演を交えて指導を受けました。

また、ペープサート以外にも、手袋人形、パネルシアター、手遊び等、様々な作品の紹介や実演をしていただき、子どもに戻ったような、楽しいひとときを過ごしました。

保育実習当日は、学んだ内容を生かし、園児の前で臆することなく発表することができ、生徒の自信となりました。



### 「読み聞かせの世界」

場所：本校 潮風会館

対象：3年「子ども文化」選択者12名

播磨町立図書館館長 小田原氏と図書館職員1名の計2名を講師にお招きし、絵本の読み聞かせに関する絵本の選定、物語の語り方、声の出し方など、工夫のポイントなどを学びました。また、紙芝居や手遊びなどの実践も交え、保育実習への足掛かりとしました。



### ふれあい育児体験

今年度も、3年生「子ども文化」選択者12名が、社会福祉法人“播磨保育園”にて保育実習をさせていただきました。

昨年同様、幼い子どもとの交流を通じて子どもを理解し、子どもの成長や自立に積極的にかかわる資質を養うとともに、今後の自分たちの生き方を考える機会となる貴重な体験をしました。

待ちに待った保育実習初日。ドキドキしながら、各自作成した名札をつけて園児の前で1人ずつ順番に自己紹介をしました。「よろしくお願ひします！」 元気な子供の声に思わず笑顔がこぼれました。担当クラスに分かれて歌ったりゲームをしたり、プールでの水遊び・・・。

最初は緊張していたようですが、保育士の先生方の指導のもと、遊びを通して園児と触れ合ううちに距離感もぐっと縮まり、あちこちで笑顔の花が咲きました。

「また来てね！」の声に見送られ半日の実習を終えた生徒たちは、楽しいなかにも自分たちの課題を見つけ、心地よい疲労感とともに保育園を後にしました。

2回目の実習は1日保育園で過ごしました。午前中は前回と同じクラスに入り、まずは生徒たちによる絵本の読み聞かせ。

事前学習として、播磨町立図書館の小田原典子館長から講義をして頂き、練習をしては行きましたが、実際読み聞かせをしてみると難しく、各自、課題も多く感じました。

その後は、縦割り保育での園児たちとの自由遊び。先生のお手伝いもしながら、保育士の仕事の大変さも体験しました。

午後は、“しっぽ取り”や“レイ取りゲーム”など自分達で考えて準備した遊びを5歳児に披露し共に楽しみました。夏休み中に準備した“遊び”は、園児たちにも大人気で、時間を忘れてしまうほどの大盛り上がりでした。最後にプレゼントした“手作りメダル”を受け取る子ども達は、みんな笑顔。「ありがとう！」の声があちらこちらで聞こえました。しかし、外遊びの最中、夢中になりすぎて、体調を悪くした園児が出てしまい、保護者にお迎えに来てもらう事態が発生しました。その様子を見て、保育士とは一人ひとりの命を預かる非常に責任の重い仕事だということも目の当たりにしました。



3回目の訪問では、園児の前で“ダンス・歌の発表”を披露しました。ダンスは生徒と園児が一緒になって踊り、爽やかな汗を流しました。その後、毎年恒例である5歳児への手作りカードのプレゼントを渡し、夏の思い出を語り合い、楽しいひと時を過ごしました。



最後の訪問日は、園児の前で“ペープサート”を披露しました。

今回も事前学習としてハーベスト医療福祉専門学校リトミック保育学科森口雅子先生に来ていただき、準備を重ねました。

12名のうち6名が、まずは手遊びをして、園児の鑑賞態度を整えてからペープサート“赤ずきんちゃん”を演じました。真剣なまなざしで見つめる園児を前に、練習の成果が発揮できたことへの喜びは大きなものだったようです。

その後、“壁面構成のプレゼント”を抱えて、お世話になった各クラスへ。中間考査と受験と制作の時期が重なり、大変な思いをしながら制作した生徒たちの自信作です。その思いは園児達にも伝わり、大歓迎を受け、早速、クラスの壁面に貼ってもらいました。

実習を重ねていく度に教えること・伝えることの難しさを知るなど、机上では得られない多くの知識を身につけることが出来ました。

お世話になった保育園の先生方に感謝の気持ちを伝え、名残を惜しみながら本年度の実習も終わりを告げました。



今年度はI類・芸術保育類型の両方から保育系列の生徒が実習に参加しました。実習を重ねながら自分の進路と、もう一度真剣に向き合い、幼児教育に携わることの意味を考えることもできました。

その結果、12名のうち当初より保育系への進学を希望していた9名全員が幼児教育・保育系への大学・短大・専門学校へと進学していきました。